

3. 北関東（地域別調査機関：（財）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	コンビニ（経営者）	・正月やバレンタイン、ホワイトデー、節分などイベントがめじる押しなので、取りこぼしのないようにきちんと品ぞろえをしていけば数字は取れる見込みである。
	やや良くなる	旅行代理店（支店長）	・2～3か月後に旅行のイベントを予定しているのですが、2、3月は団体が苦しい時期であるが、当店については現在より良い見通しである。
	変わらない	商店街（代表者）	・社会的不安要素が多く、物価が値上がり気味となり、買い控えはますます多くなる。駅前通りでありながら、1年間空き店舗に入店者がなく、不安が募っている。
		百貨店（営業担当）	・原油等、いろいろな物価が値上がりしているのですが、これから良くなるという雰囲気はない。また、客の買い方もかなり慎重になっている。
		百貨店（販売促進担当）	・客単価は上がっているが、来客数の前年割れが続いている。競合店や郊外ショッピングセンターとのパイの奪い合いで、流失した客足を当店に向かせるのは困難である。クリアランスセールが始まるが、前年以上の来客数を確保することは難しい。
		百貨店（販売促進担当）	・百貨店の商品群の中でこれといったヒット商品は見当たらず、今後もあらゆる商材が値上げする傾向にあるなかで、消費が活発になるとは予想できない。やはり衣料品等はたんず在庫で済ませてしまうのではないかと、というのが実感である。
		スーパー（総務担当）	・年末年始の客の動きをみると、衣料品が非常に苦戦しており、食料品の販売点数も前年並みから前年を若干割る状況で推移している。今後この状況が好転するような条件は全くないので、1～3月は横ばいあるいは若干下がり気味となる。
		衣料品専門店（店長）	・食料品や燃料費など、生活必需品等の値上げにより消費マインドはますます落ち込む。
		衣料品専門店（統括）	・悪いということでは変わらない。付近の大きな郊外ショッピングセンターが2つ開店して1年、ほとんど客がそちらに行ってしまう。開店以来1年で何百万人の来店という報道があったが、それだけ中心街に来る客がほとんどないということである。今後どうなるのか、ただ時間を掛けて待つしかないのか、その間にどうなってしまうのか心配である。
		乗用車販売店（従業員）	・新型車が販売になっても販売台数が伸びてこないで、3か月先も変わらない。
		乗用車販売店（販売担当）	・ここ半年くらい展示会を開催しても販売量がさほど伸びない。12月は年末商戦でかなり台数が見込めると思っていたが、2～3か月前と同じような台数しか売れていない。年が明けて1～3月は一番厳しい時期だが、落ち込みも伸びもなく、販売量の少ない状態のまま推移していくのではないかとみている。
		住関連専門店（仕入担当）	・年末年始の客の動向からも、消費の冷え込みを実感させられている。短期的には改善されず、商圏内の競合店出店も続いているため、厳しい状況が続く。
		スナック（経営者）	・関東南部では景気が上昇中とのことだが、北部は上昇が見られず、全く先行き不透明である。
		都市型ホテル（支配人）	・中央資本のホテル進出が続き、部屋数の供給過多に対し、需要の伸びが見込まれないため、現状の下げ止まりのまま進む。
		ゴルフ場（副支配人）	・12月の入場者、来場者は過去にないほどの実績を計上することができたが、これは今までにない低価格、低料金を設定したことで、従来とは違った客層の来場者があったためである。価格の差、金額設定に客が敏感であることを痛切に感じている。今後の引き合いはあるものの、来場者の増加はなかなか見込めない。価格が下がっている分、売上が伸びないので収支の中においては厳しい。
競輪場（職員） 設計事務所（所長）	・競馬、ボートの大会売上も下がっている。 ・まだまだ悪い状態のまま変わらない。公共物件、民間物件共に期待出来るような要因が何もなく、かえって建築確認申請の厳格化の影響が尾を引いているなかで、建設関連業種のいずれもが良くなるということは考えられない。せめて、これ以上悪くなることのないようにと祈る思いである。		

	住宅販売会社（従業員）	・例年、これからは新学期を前にした3月の引渡しを希望する客が多くなる時期だが、建築確認の許可が遅れがちになっている影響もあり、物件完成引渡しの時期が予測困難となっている。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・各種値上げラッシュで消費者心理が冷え込む。
	商店街（代表者）	・今後も近郊に大型ショッピングセンターがオープンするため、更に消費の低下、客の拡散が発生し、効率の悪い営業となる懸念がある。
	一般小売店〔家電〕（経営者）	・新生活、新入学等での消費動向が読めない。アパート、マンションなどに備え付けの家電が増えたので、購入は見込めない状況である。全体に買い控え傾向が見られる。
	スーパー（販売促進担当）	・企業努力ではカバーしきれないぐらいに物価高が影響し始めている。客が想定する購入価格と原価から算出される売価のギャップ拡大が続くようであれば、値下げ幅の拡大で悪くなる。
	スーパー（統括）	・値上げがあることが大きな不安材料である。春の新製品も値上げに合わせて発売されそうである。
	スーパー（統括）	・原材料の値上げによる商品原価の値上り要請がメーカー各社より相次いで出され、年内は現状価格を維持するものの、中長期的に回避できる状況ではない。来春の新製品はほとんどのカテゴリーで値上げが予測され、消費者はより慎重な態度を取るため、全体傾向として消費意欲の減退は避けられない情勢である。
	一般レストラン（業務担当）	・ガソリン代を始めとする各種料金の値上げは、客の外食しようというマインドを冷え込ませている。レストランの夜の来客数、売上は前年より10%ほど下回っている。おせち料理の受注だけは前年5%程度上回り順調である。1月以降の宴会予約の組数は前年並みだが、料理単価、出席者数は前年を下回り、売上は10%程度減少の見通しである。
	都市型ホテル（経営者）	・原油高によりポイラー、暖房燃料が倍になっているが、客に負担させることができず、利益が薄くなっている。
	都市型ホテル（スタッフ）	・新年会が一段落すると歓送迎会まで目立った需要がなくなり、お年玉や家族旅行など、お金が必要だった反動で財布のひもも固くなりそうである。
	旅行代理店（経営者）	・地方は良くなる要因が見つからない。ガソリンを中心にして物価が上がってきているなかで、収入も増えておらず、地方はまだ資産デフレが止まっていないので、先行きはやや弱含み、やや悪くなる。
	旅行代理店（副支店長）	・大きな変動はないと思われるが、燃油の値上げが響いてきている。客が自家用車の利用を極力避ける傾向にあり、来店も減少している。当業界は数年間低迷しているが、この先更に燃油高等により客の反応が極端に悪くなる。
	タクシー運転手	・得意先の個人の居酒屋が12月一杯で4軒も閉店する。週末だけではやっていけないらしく、他に2軒、1月一杯で閉店する。ますますタクシーを利用する客が少なくなる。
	通信会社（営業担当）	・景気は決して悪くはないが、会社の利益に対して個人の給与に還元されていない分、今後の個人消費は下がる傾向になる。
	悪くなる	ゴルフ場（支配人）
その他レジャー施設〔アミューズメント〕（職員）		・夏のボーナスは出そろったあたりから売上が大きく変わったが、12月の場合はボーナスが出た時期からの変化があまりない。客がリラクゼーション、心のケアに使うお金を制限し、財布のひもが固くなっているような傾向が見受けられるので懸念している。
住宅販売会社（経営者）		・増税、原油高による物価上昇と、悪い条件が多い。企業の不祥事等暗いニュースも多く、政治が安定しないので余計にお金を使おうという意識が少なく、とにかく暗い状況である。
コンビニ（店長）		・原油価格が高騰し、諸物価が1月以降どんどん値上げになり、今後の景気は悪くなる一方である。
衣料品専門店（経営者）		・来年には生活用品の値上がり等が報道されているのでますます買い控えになる。

	家電量販店（店長）	・このままの状態では厳しい。季節商材にも影響があり、石油燃料の暖房器具は不人気、対照的に電気での暖房器具が人気となっている。石油系燃料や物価の上昇が続けば、し好品の商品のテレビやパソコン本体などは、買い控えになってしまう。
	乗用車販売店（販売担当）	・とにかく車を見に来る客が少ない。既存の客がほとんどで、新たな若い客が本当にいない。手近に買える携帯電話やパソコンに移ってしまっているのか、若い人の車離れがより一層進んでおり、車業界はお先真っ暗という感じである。何とか来年は良い年にしたいが、来年も同じような状況が続くのではないかとみている。
	住関連専門店（店長）	・来客数の減少に加え、購入した客の買上点数も前年比で0.1点だが減少している。また、資材関係の業者向け需要も極端に購買動向が悪くなっている。
	高級レストラン（店長）	・原油価格の高騰により、あらゆるものの値段が上昇し、家計を圧迫して外食にお金を使わなくなることに加えて、野菜や肉、光熱費などの仕入価格や経費の上昇でかなり深刻な状況になる。
	一般レストラン（経営者）	・ここにきて仕入物価高、タクシーの値上げ、飲酒運転防止による忘新年会を控える会社等が増え、大口の予約が減ってきている。
	スナック（経営者）	・良くなりそうな要素がない。ちょっとやそつとでは立て直せないほどの不景気になっている。
	観光型ホテル（スタッフ）	・予約件数が前年比30～35%減少している。
	都市型ホテル（スタッフ）	・今後2～3か月の宿泊予約はせいぜい前年の6～7割という状況で、非常に悪化している。また、来春には新規ホテルが参入、オープンが続くので、客を取られる懸念がある。
	タクシー運転手	・原料費高騰の影響による物価の値上がりで、乗り控えが予想される。駅に降りる客も、家族の送迎車両で家に帰る姿が目立つ。今後、定年後の団塊世代が家族の送迎を担当する時代となり、タクシー業界の業績はますます悪化する。
	観光名所（職員）	・企業の収益は好調であっても、個人の収入ベースは減少傾向が続いている。別荘のような大型物件については、今後ますます需要が低下する。
企業 動向 関連	良くなる	-
	やや良くなる	金属製品製造業（経営者） ・ここにきて海外の需要、特に東アジア等への輸出がかなり出てきている。また、年度末の3月を控えての生産量の増加もあり、受注は増えてくる。
	変わらない	化学工業（経営者） ・2、3月の受注はあるので工場の稼働は問題ない。ただし、石油関連の原料は相変わらず値上げ傾向にあり、コストに与える影響も限界の感がある。
		一般機械器具製造業（経営者） ・ここ半年間、新規製品の受注がなく作業量は横ばいを続けている。従来品の消滅がないのが幸いである。
		電気機械器具製造業（営業担当） ・設備投資をする企業も限られてきており、なかなか受注に結び付かない。
		輸送用機械器具製造業（経営者） ・取引先の様子、競争相手の様子と受注量、販売等もしばらく良いので、この良い状況で推移する。
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者） ・素材の値上がり、物流コストの増加が拡大し、情報化投資が抑制される。
	やや悪くなる	食料品製造業（製造担当） ・景気の先行きが読めてこないところで、買い控えが始まり、悪くなっていく。穀物の2次加工の産業、特に豆腐製造は中小企業、零細が多だけに、本当に原価を上げられるかどうかにかかっている。このまま行くと廃業、倒産に追い込まれる。
	出版・印刷・同関連産業（営業担当） ・当地区では、大手の自動車ディーラーが倒産した影響がかなり出ている。また、資材等の高騰によってかなり厳しい状況になることが予想される。	
	電気機械器具製造業（経営者） ・例年、1～3月期の駆け込み需要があるが、今年は今のところ公共の関係の仕事がほとんど見えてこないということ、前年比で3割くらい落ちる見込みである。4～6月期以降は新しい取引先と仕事が開始できるので何とかなるが、1～3月期は当社にとって相当厳しい状況である。	
電気機械器具製造業（経営者） ・この1年会社を維持するのがやっとであった。大企業の上昇に比べ、我々は本当に厳しさが続いており、今年はずいぶん賞与も払えなかった。何とか来年に期待し、努力したい。		
輸送業（営業担当） ・例年のことであるが荷動きが落ち込み、燃料高のコスト負担もあるので、厳しい月になっていく。		

	悪くなる	食料品製造業（営業統括）	・今後円高傾向が一層強まることが考えられ、輸入品、特にチリやオーストラリア、アルゼンチン等の新世界ワインの増加により、ますます国産ワインは苦境に立たされる。
		一般機械器具製造業（生産管理担当）	・油圧、建機の分野は引き続き好調であるが、新規分野の仕事で2か月先には終了する予定の大きな案件があり、そのマイナス分をカバーできない。また、期待している自動車の開発関連の仕事も、開発の谷間に入ることから例年並みの売上を期待できない。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・原油高に伴って、素材関係も高値安定が続いている。来年はその周辺の経費が上昇傾向に入ってくるので、収益的に非常に厳しい見通しとなっている。コスト転嫁が最大のポイントとなる。
		建設業（総務担当）	・2期連続で赤字決算となってしまう、資金繰りでの取引銀行の対応が大変厳しくなっている。それに加え納入業者、特に材料関係会社が、風評で判断してきているので、気を付けなければならない。
		金融業（総務担当）	・来月以降も燃料及びガス料金の値上げ通告が来ている。今までにない1割近くの値上げ幅なので、更なる経費増は避けられない。
		広告代理店（営業担当）	・忘年会ピークの12月だが、飲食店のオーナーの話では、来客数が前年より1割減少してるとのことである。スナックが密集するエリアでは、平日は客寄せだけで、客の数は相当少ない。材料費、燃料費の高騰で、経営が危ないという会社の話はかなり聞くようになってきている。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	求人情報誌製作会社（経営者）	・周辺企業は一部の企業を除き全般的に景気は低迷しており、まだまだ厳しい状況の中で正社員の募集は極端に少ない。
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社（経営者）	・12月に入って求人広告の依頼がかなり少なくなってきている。最終的には今年1年間の集計で前年度より5%くらい落ちている。また、1月先付けの広告依頼についてもやや低迷しているため、悪くなるような感じである。
		職業安定所（職員）	・新規求人、有効求人共に前年同月比を下回っている。特に飲食、宿泊業、医療、福祉、専門サービス業が減少している。
		職業安定所（職員）	・主要産業である製造業、サービス業からの新規求人申込が減少している。
		職業安定所（職員）	・原材料の値上げが収益を圧迫しつつあり、現状では内部留保の取り崩しや経費節減でしのいでいるが、この状況が長引けば雇用面への影響が出てくる。
		民間職業紹介機関（経営者）	・原油高騰による原材料高、円高による輸出価格への影響といった心理要因が大きく、大幅な受注減は見られないものの、新卒入社を4月に控え、経験者の採用を手控える動きが顕著になってきている。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	・就職活動をしている学生の姿勢が変わらないとなかなか変化は現れない。08年度に向けた採用活動をしている企業もあるが、消極的な学生と接触したときに他の雇用形態に移行する可能性があり、心配している。
	悪くなる	人材派遣会社（経営者）	・ガソリン、原油価格の高騰と小売商品等の若干の値上がりもあり、購買力が鈍っている。電子や電機もさほど動きがなく、生産関係も忙しい感じではない。住宅関連は加工品の補充程度で、横ばい、若しくはやや少ない感じで、先行きに不安を抱えているところである。